

# あがつま



年間聖句

『兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。』

(ガラテヤの信徒への手紙5章13節)

♪ 賛美歌を歌おう⑨

『われら耕し』

讃美歌…422番

収穫感謝の賛美として親しまれている歌で、歌詞はドイツの詩人、マティアス・クラウデイウス(1740-1815)の詩に基づくものです。

クラウデイウスは、ルター派の牧師の子として生まれ育ち、イエーナ大学で神学を学ぼうとしますが、健康上の理由と合理主義的な大学への反感のために法律と語学に転じました。

同時代の詩人ゲーテ(1749-1832)とも親交があり、後にシュューベルト(1797-1828)は、『魔王』と共に、『死と乙女』を作曲しています。

『われら耕し』の歌詞はもと賛美歌としてつくられたものではなく、『パウエル・エルトマンの祝祭』(二九七三)という長編詩に出てくる農民たちの歌でした。その作中歌が、ドイツのシュトルツェナウの教区監督であったアウグスト・ルトヴィヒ・ホッペンシュテット(1763-1830)という牧師によって編集され、収穫の感謝を神にささげる賛美歌として広く親しまれるようになりました。実際に通して神の臨在を感じ取り、感謝をささげるこの歌は、シンプルに響きわたらせませます。

稲垣真実)

